

第23回 DAS 合同発表会の開催に際し、出演者・観客・スタッフ・関係者（以下「来場者」という）の安全を確保するため、各施設で提示されているガイドライン及び緊急事態舞台芸術ネットワークが示す「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」の考え方・対策を活用しながら、感染予防対策に取り組みます。

■公演形態について

例年とは異なる方法で開催する。なお、感染者数の急増などによって社会状況が大きく変化した場合は、開催中止とする場合もある。

- ・会場内に滞在する人数を減らし会場内の密を避ける（無観客とします）
- ・出演者1人の滞在時間を減らす（集合・解散はクラスごとに設定します）
- ・各会場の定めるガイドラインに則って、会場管理者と協議しながら制作を進める

■開催方法（1/25時点）

①会場内の人数を最低限にするため、プログラム毎の開催及び即日の配信を中止し、本番日はクラスごとの作品撮影日とし、それを編集したものを3月に配信する。

②観覧は中止（無観客）

会場内に滞在する人数を最低限にするため、観覧は中止とする。

*3月に発表会配信日を設け、オンラインで配信する

<撮影日の感染予防・感染拡大予防対策> ※1/25 追加

◆マスクの着用

- ① 会場内では、全員マスク着用を必須とします（*本番の撮影時のみ任意とします）
- ② 発声を伴う演出や、応援は禁止とします
- ③ スタッフの昼食・夕食時などマスクを外す場面では十分な距離をとります

*大勢で使うスタッフ用のケータリングなどは今回設置しません

◆手洗い・消毒

- ① 会場内に消毒液を設置すると共に、手洗い・消毒を喚起します
- ② 入場時、本番前後に手指の消毒を実施します
- ③ 施設内のドアノブや手すりなど、不特定多数の人が触れやすい場所の消毒を実施します

◆換気

- ① 施設内は常に換気を実施します
- ② 通路、楽屋、スタッフ控え所なども定期的に換気を実施します

◆ソーシャルディスタンスの確保

- ① 出演者は楽屋として使用する客席に2席ずつ間を空けて着席します

※どうしても着替えが必要な方には着替え楽屋を用意します。一度に使用できる人数は、定員の半分以下とし、滞在時間はできるだけ短く、着替えのためだけの利用に制限します。

② 会場内において、待機中や列を作る際には可能な限り間隔を開け、人が密集しないよう努めます

◆集団間の接触について

① クラスとクラスが接触する場面を作らない動線や待機を実施します

*クラス間に渡って対応するスタッフはフェースシールドとマスクを着用し、小まめに消毒を実施します

◆健康チェック

① 出演者、スタッフなど会場に入る全員の健康チェックを自己申告してもらおうと共に、情報を1か月間保管し不測の事態があった際は、即座に連絡できる状況を整えます

② 集合時に全員の検温を実施します（*非接触型体温計使用）

◆密の回避

① 会場にいる人数を最低限にすると共に、無観客とします

【出演者・スタッフへのお願い】

★以下の場合は、撮影会への参加は禁止です★

① 感染症やそれに伴う濃厚接触者の特定等で、「通っている学校が休校になった場合」や「学級（学年）閉鎖になった場合」、「職場が休業になった場合」

② ご家族や本人がPCR検査を受けることになった場合

③ 発熱、嘔吐など体調に不安がある場合

※体調が少しでも優れないと感じたときは、大事をとってお休みしてください。

④ 熱や咳、吐き気、下痢などの症状は出ていないが、ご家族の方が感染している等、感染の疑いがある場合

※迅速な対応を行うため、感染症に罹患された場合は、担当講師へのご連絡をお願い致します

個人名を公表することはありません

■会場全般の対策

- ・来場者全員にマスクの着用を必須とする。
- ・来場時に手洗い、手指の消毒を必須とする。適切な場所に消毒液を設置する。
- ・施設内のドアノブや手すりなど、不特定多数の人が触れやすい場所の消毒をこまめに行う。
- ・常に会場内の換気、こまめな消毒を行う。
- ・会場内(会場入口、チケット窓口、ロビー 他)において、列を作る際には可能な限り間隔を開けるよう案内し、人が密集しないよう努める。
- ・入場、退場の際は密にならないように時間を調整する。
- ・来場者の氏名、及び、連絡先の把握に努める。また、必要に応じて保健所等の公的機関へ提供され得ることを、来場者へ事前に周知する。
- ・来場前の検温、体調チェックシート提出実施要請の他、来館を控えてもらうケースを事前に周知する。

■客席の対策

- ・座席は適切に席の距離を取り、感染予防措置のとれる配置とするよう心がける。
- ・座席の最前列席は、舞台前から適切な距離を取る。

- ・必ずマスクを着用し、大きな声で発声（応援など）をしないよう周知する。

■舞台の対策

- ・出演者は、舞台上でのマスクの着用は任意とする（本番のみ、リハーサルはマスク着用が必須）
- ・舞台上での故意な接触・発声はしない。
- ・発表の前後は、スタッフの指示に従い、必ず手指の消毒を行う。

■公演後の対策

- ・可能な範囲で来場者の氏名、及び、連絡先を把握し、名簿を作成・保存するよう努める（保存期間を当面1か月以上とする）。なお、個人情報の保護の観点から、名簿等の保管には十分な対策を講じる。
- ・感染を疑われる者が発生した場合には、速やかに所轄の保健所に連絡し、必要な情報提供を行う。

■作品制作について

- ・以下、作品制作のガイドラインに沿って、進めるようお願いします

作品制作のガイドライン—新型コロナウイルス感染予防—

DAS ダンスサークル/D-Life ダンススクール

(2020年9月作成)

今年度は、コロナ禍で作品制作を進める必要があります。新型コロナウイルス感染予防を実施した上で、作品制作を進めていきましょう。本番、及び、練習時の感染リスクを減らすため、三密を回避し、濃厚接触を防ぐことが重要です。以下、ガイドラインを定めます。参考にしてください。

(1) 作品制作（振付）の注意点

①接触・発声をしない

接触→手をつなぐ、ハイタッチ、リフト、靴タッチなど、人と人が故意に触れるような振り付けをしないこと

※補助するなどやむを得ない場合を除く

発声→飛沫感染防止。発声をする場合は必ずマスクを着用すること

②人と人の距離（ディスタンス）、は特に制限しない

ただし、密集する秒数や顔の向きなどを考慮することが望ましい

③本番時のマスクの着用は任意とする

舞台袖まではマスクを着用すること。また、演技前後はスタッフの指示で手指の消毒をすること。

(2) 練習時の注意点

- ・各施設の感染予防対策に沿って、体調チェック・換気・消毒を適切に行うこと
- ・構成上、人と人の距離が近くなる場合は、マスクを着用して練習すること
- ・小道具を使う場合は消毒すること（使いまわさない）
- ・熱中症にも注意し、適切に休憩をとること

<参考>

- ・緊急事態舞台芸術ネットワーク 舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

http://jpasn.net/stage_guideline0630a.pdf

- ・牛久市生涯学習センター 新型コロナウイルス感染拡大予防主催者用ガイドライン

https://www.clef.co.jp/ushiku/?page_id=252

- ・つくばカピオ利用ガイドライン (新型コロナウイルス感染拡大防止対策)

<https://www.tcf.or.jp/news/res/2020/8/5/20200805161342.pdf>

- ・常総市地域交流センター 新型コロナウイルス感染症対策

<http://www.city.joso.lg.jp/shigai/kanko/chiiki/1421553530228.html>

質問・相談等はお気軽にDASまでお問い合わせください



URL <http://das-dance>

・お問い合わせ

Dance Association Seeds (発表会事務局)

〒305-0821 茨城県つくば市春日 3-20-12

DAS 内発表会事務局宛

TEL&FAX 029-859-3313

Email info@das-dance.com